

授業づくりの基本 ～1単位時間の授業の目標の明確化～

1

これから、「授業づくりの基本」についての研修を始めます。

この研修では、1単位時間の授業の目標を明確にするとともに、子供の姿を具体的に想定し、目標に正対した学習活動を位置付けることについて理解することをねらいとしています。

前半に説明、後半に学習指導案を基に検討する演習を行います。

（時間の目安：説明10分、演習20分）

1 「ねらい」から「まとめ・振り返り」までの 1 単位時間のデザイン

1 単位時間で完結できる導入・展開・終末の時間
配分をする。

- ◆ 1 単位時間で全ての児童生徒を「概ね満足できる」学習状況にする観点から、時間配分を工夫します。

本時のねらいに正対した学習活動を位置付け、評
価規準との関連を図る。

- ◆ 本時の「まとめ」、「振り返り」の児童生徒の姿を想定し、終末に至るまでの過程を考え、授業を構想します。

「令和 2 年度小学校教育課程編成の手引」（北海道教育委員会）

2

授業づくりにおいては、「『ねらい』から『まとめ・振り返り』までの 1 単位時間のデザイン」をすることが大切です。

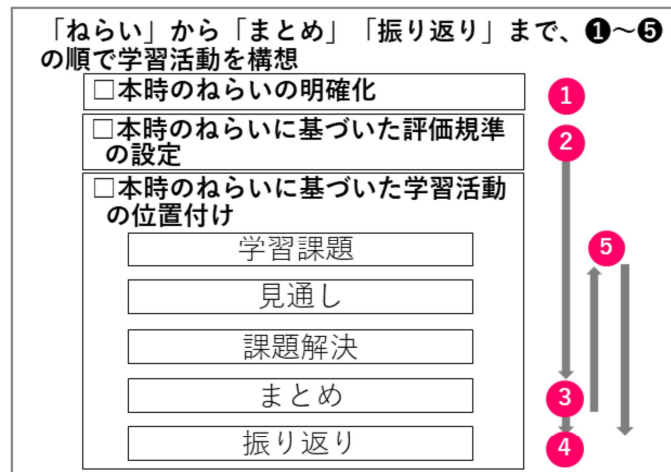
学習活動は、限られた時間内で、本時のねらいを達成するものです。

そのため、単元全体を通して、身に付けさせたい力を育成することができるよう、単元の指導計画を基に 1 単位時間のねらいを明確にし、子供の思考の流れや課題解決の筋道を明らかにして、ねらいに正対した学習活動を位置付けることが重要です。

スライドにはポイントを 2 点示していますが、主に下の枠囲みの内容について説明します。

2 目標を達成した子供の姿を具体的に想定する

本時のねらいに正対した学習活動を位置付け、評価規準との関連を図る。



「令和2年度小学校教育課程編成の手引」（北海道教育委員会） ③

1 単位時間の授業を構想する際に重要なことは、授業者が「目標を達成した子供の姿を具体的に想定していること」です。

授業の流れはスムーズで、活動は展開されていたけれども、目標を達成した子供の姿（評価規準）を具体的に想定できていないため、本時の目標を達成ができたかどうか曖昧になっている場合があります。

目標を達成した子供の姿が曖昧だと、講じた手立てが良かったのか、何のための手立てなのか不明確になってしまうため、授業改善が難しくなります。

子供にどのような姿が見られたら目標達成となるのか、ねらいを実現した子供の姿を評価規準として、具体的に想定し、授業に関わる教員間で共通理解しておくことが重要です。

また、ねらいに正対したまとめと振り返りを設定することも大切です。

振り返りにおいては、今日の目標（課題）は何で、どうだったか（達成できたか、どんなことが分かったか）など、子供自身が振り返る視点を示すことが大切です。

知的障がいのある子供には、まとめや振り返りの内容について、「いつ行った何のことを思い出したり、考えたりすれば良いか」が分かるように工夫する必要があります。

例えば、創作する活動で、出来上がった物よりも作る過程を振り返ってほしい時には、子供の活動場面を写真や動画に撮って、見せながら言葉での説明をして振り返りをすることが考えられます。

中学部 保健体育科「ダンス」の例 ～単元の目標と評価規準～

単元の目標		
知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
・ダンスの行い方が分かり、ステップや振り付けを身に付ける。	・ステップや振り付けの得意・不得意に気づき、ダンスの内容を考えたり工夫したりしたことを友達に伝える。	・ダンスに進んで取り組み、友達の発表後に、次のダンスにつながる感想を伝える。

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ダンスの行い方が分かっている。 ・ステップや振り付けを身に付けている。	・ステップや振り付けの得意・不得意に気づき、ダンスの内容を考えたり工夫したりしている。 ・考えたり、工夫したりしたことを友達に伝えている。	・ダンスに進んで取り組み、友達の発表後に、次のダンスにつながる感想を伝えようとしている。

➡ 単元を終えた時に、生徒はどのような力を身に付けたか？

4

ここからは、事例を基に説明します。

これは、知的障がい特別支援学校中学部の保健体育科の「ダンス」の単元の目標と評価規準の作成例です。

中学部の保健体育科のダンス領域の内容と学習評価の参考資料を基に作成したものです。

目標と評価規準を3つの観点で位置付けています。

中学部 保健体育科「ダンス」の例 ～単元の指導計画～

時	主な学習活動	目 標	評価の観点		
			知	思	主
1	脚のステップや腕の振り付けの練習	脚のステップや腕の振り付けが分かり、踊ることができる。	○		
2	踊る曲、ステップや振り付けの選択、決定	踊る振り付けの選択や決定で、考えを持ち、意見を言う。			
3	振り付けの練習①	振り付けの出来映えや変更点などについて考えを持ち、意見を言う。		○	
4	振り付けの練習②				
5	振り付けの確認	脚のステップや腕の振り付けを決めたとおりに踊ることができる。	○		
6	コンテスト①	発表を見て、感想を言う。			○
7	振り付けの変更、改善	コンテストを振り返り、振り付けの変更、改善に考えを持ち、意見を言う。		○	
8	振り付けの練習③	脚のステップや腕の振り付けを決めたとおりに踊ることができる。	○		
9	振り付けの練習④		○		
10	コンテスト②	発表を見て、感想を言う。			○

5

これは、単元の指導計画の例です。

単元の目標を踏まえて、1単位時間において育成を目指す資質・能力の観点や評価規準を位置付けています。

単元を計画する際には、1単位時間に身に付けさせたい資質・能力を明確にするとともに、授業ごとの評価や、単元の目標や展開を踏まえて、どのタイミングでどのような方法で評価を行うか、計画を立てておくことが大切です。

また、単元の指導計画の作成に当たっては、教員が教える場面や子供に考えさせる場面をどこに設定するかということや、どこで知識・技能を身に付け、それを使った学習活動をどこに設定するか、それまでの学習をどこで振り返るかなど、子供が学ぶ姿や学ぶ過程をイメージしながら学習活動を組み立てることが大切です。

スライドに示した計画を例にすると、基本となる知識・技能を習得し、振り付けの検討や練習を経て一度発表し、他者との関わりなどから振り返り、2回目の発表会で力を発揮できるようにダンスを改善したり技能を身に付けたりしていくといったように構成されています。

子供が、単元を通して目指すことは何なのか、学習活動に対して目的や見通しを持てるようにすることは、主体的な取組につながります。

スライドの赤い枠に注目してください。

この時間は、「思考力、判断力、表現力等」の目標に向けた授業です。

生徒のどのような姿を目指した授業が考えられるでしょうか。

中学部 保健体育科「ダンス」の例 ～本時の授業～

【目標】・踊る振り付けについて考え、意見を言う。

導入

・脚のステップや腕の振り付け（既習事項の確認）

「前時に学んだ知識・技能を踏まえ、踊るダンスの振り付けや順序などを考え、意見を言う」

展開

本時の課題を提示する
生徒が考えるための視点を示す

学習活動の位置付け
手立て



（生徒の発言や記述の例）

「腕のこの振り付けは得意だから、何回か繰り返して取り入れたいな。」

目標を達成した子供の姿の具体

6

単元の「思考力、判断力、表現力等」の目標は、「ステップや振り付けの得意・不得意に気付き、ダンスの内容を考えたり工夫したりしたことを友達に伝える」であり、本時の目標は、「踊る振り付けについて考え、意見を言う」です。

こうしたことを踏まえると、この時間は、「生徒が、前時に学んだ知識・技能を踏まえ、踊るダンスの振り付けや順序などを考え、意見を言う」といった、思考・判断・表現する姿を目指すとともに、評価することが考えられます。

こうした姿を目指し、目標の達成に向け、導入場面での既習事項の確認、展開場面における本時の課題の提示や学習活動の位置付け、発問、振り付けを考える視点の提示などを工夫します。

授業では、ダンスの振り付けを確認したり練習したりする場面などがあり、技能に目が行きがちですが、単元の目標や評価規準を踏まえ、本時のねらいを明確化することが大切です。

本時の目標及び評価規準の焦点化

単元の目標を
踏まえて、
本時の目標
及び評価規準を
焦点化

【単元の評価規準】

知識・技能

思考・判断・表現

主体的に学習に取り組む態度

- ・ ステップや振り付けの得意・不得意に気づき、ダンスの内容を考えたり工夫したりしている。
- ・ 考えたり、工夫したりしたことを友達に伝えている。

生徒の考えている姿や表現している姿を見取る

7

保健体育科の「ダンス」の単元の事例を基に説明しました。

事例における本時の目標は、資質・能力の三つの柱のうち「思考力、判断力、表現力等」で、目標を焦点化することにより、生徒の考えている姿や表現している姿を見取って評価することができますし、それを目指した学習活動の設定や発問をすることになります。

学習指導要領に示されている各教科の内容は、育成を目指す資質・能力の三つの柱で整理されており、単元の目標は、資質・能力の三つの柱から設定しますが、実際の1単位時間の授業で三つの柱の目標を達成することは難しいことです。

そのため、学習内容を考慮しながら、目標及び評価規準を焦点化することが大切です。

単元全体を通して、身に付けさせたい力を育成するために、単元の指導計画を基に1単位時間のねらいを明確にし、本時のねらいに正対した学習活動を位置付け、評価規準との関連を図ることが大切です。

演習

自分の授業のねらい（目標）について、
どのような姿が見られたら達成となるのか、
考えてみましょう！

- ・ 本時の目標は、3つの資質・能力のうちのどれか。
- ・ その内容はどの教科の内容か。
- ・ 子供にどのような姿が見られたら、本時の目標の達成となるのか。
- ・ 目標に迫る子供の姿を、どの場面でどのようにして見取るか。
- ・ 目標の達成に向けた、課題の提示、学習活動、発問、振り返りは、どのような工夫が考えられるか。

8

それでは、ここから演習を行います。

皆さんが担当している授業の学習指導案（指導略案）を準備してください。

この演習では、学習指導案を基に、目標を達成した子供の具体的な姿を想定し、学習活動の位置付けや手立てを検討することを通して、本時の目標を資質・能力の三つの柱から焦点化して設定することを理解することをねらいとしています。

授業において、本時の目標を明確にし、正対した学習活動を位置付け、子供の姿を見取ることができるよう、実際の学習指導案を基に、本時の目標は資質・能力の3つのうちどれなのか、子供にどのような姿が見られたら達成となるのかなどについて、個人思考を行ったり、話し合ったりしましょう。

＜演習の進め方の例＞

- ① 個人思考（10分）
- ② 協議（10分）

☆ 指導教諭は、受講者に、個人思考の観点をスライドに示した内容を参考に提示するとともに、協議において、それらの観点を受講者に問い掛けたり、一緒に考えたりするなどして、受講者が対話しながら授業づくりに対する理解を深め、意欲や見通しを持てるようにする。

〔個人思考及び協議の観点的例〕

- ・ 本時の目標を焦点化すると、資質・能力のうちのどれか。
- ・ その内容はどの教科の内容か。
- ・ 本時において、子供にどのような姿が見られたら、本時の目標の達成となるのか。
- ・ 目標に迫る子供の姿を、どの場面でどのようにして見取るか。
- ・ 目標の達成に向けた、課題の提示、学習活動、発問、振り返りは、どのような工夫が考えられるか。

（時間経過後）

これで、「授業づくりの基本」の研修を終わります。